

加藤勘十 かとう かんじゅう 労働運動家、政治家。明治二十五年二月二十日愛知縣岩倉生れ、昭和五十二年九月二十七日歿（八九一―九七六）。大正七年シベリア出兵に應召。除隊後労働運動に入り、翌年東京新聞總罷業を指揮。九年八幡製鐵所争議の際は騒擾罪で入獄。出所後全日本鑛夫總聯合、昭和九年日本労働組合全國評議會を結成。十一年衆議院議員（普選九回）、翌年人民戦線事件に檢舉。戦後社會黨結成に参加、二十二年労働。加藤鯨一の弟、妻は加藤シヅエ。著書『統一戦線の展望―反動勢力といかに戦ふか？』（昭和十一年一月十五日時新新聞社）『時新パンフレット』、『自叙伝』（昭和二十八年十一月十五日双藤会）等。

